

しみずの教育 ちよつといい話

【令和元年12月号】

清水小学校

校長 高井正樹

5年生特集号 その1 宿泊学習



5年生が帯広市の児童会館へ宿泊学習に行きました。工作教室や科学実験、プラネタリウムや天体観測など、学校ではできない様々な体験や学習を通して、科学の楽しさを学んできました。一泊二日の学習を終えて帰校した子どもたちは、疲れ切った様子で、きっと学級の仲間たちと寝食を共にし、寝る間も惜しんで楽しい思い出をたくさん作ってきたのでしょう。

その2 シェフに学ぶ

元北海道ホテル総料理長の工藤一幸さんによる、「シェフに学ぶ！十勝の美味しい大豆料理」の食育の授業が行われました。この授業は、4年生以上の総合的な学習の時間で取り組んでいる「大豆100粒運動」の一環として、5年生を対象に行ったものです。授業の前段では、工藤シェフが子どもたちの目の前で、「大豆とトマトライスの春巻き」と「大豆肉じゃがカレー風味」の2品を作ってください、その後、子どもたちがグループに分かれて同じ料理を作りました。子どもたちは、時々工藤シェフからアドバイスをいただきながら、グループで協力して料理を完成させることができました。出来上がった料理を頬張る子どもたちは、「おいしい！」を連発！工藤シェフ考案のレシピで大豆のおいしさを改めて知ることができました。



その3 年長児との交流会



幼保・小連携事業の一環である、5年生と年長児の交流会が、体育館で行われました。この交流会は、来年度の新6年生と新1年生のつながりをつくるために、毎年行っているものです。5年生が考えた「だるまさんが転んだ」「しっぽ取り」「段ボール迷路」の3つのゲームブースを、年長さんたちを連れて順番に回る形で交流しました。時間をかけて一生懸命に準備してきた5年生でしたが、当日は恥ずかしさからか、グループによっては上手に交流できなかったところもあったようです。今回上手くできなかった経験を生かして、4月からの交流につなげていってほしいです。

心に響け 感動とメロディー!! ～学習発表会から～

11月9日（土）に、本校の学習発表会が行われました。三澤教育長はじめ多くのご来賓、保護者、ご家族、祖父母、ご親戚、地域の方々にご来校いただき、ありがとうございました。

子どもたちは、本番に向けて自ら進んで休み時間等にも器楽の練習をしたり、劇のせりふを覚えたりしていました。また、子どもたちはストーリーに工夫を加えたり、せりふの言い方や動き方などを考えたり、お互いにアイデアを出し合ったりしていました。さらには、お互いに友達の発表の良いところや改善点なども話し合っ、より良い発表になるように頑張っていました。今年度の本校の重点である「表情豊かで、ひびき合っ、て学ぶ石の子」の姿にせまるものであったと思います。

学習発表会当日は、どの学年も練習の成果を発揮し自分たちのもてる力を精一杯出し切っ、て発表することができました。その一生懸命さにより、テーマ「心に響け 感動とメロディー!!」のとおり、感動をお届けすることができたのではないかと思います。そして、また一回り成長した子どもたちの姿となりました。この頑張りがまた次の活動につながっていくものと思います。

ご家庭の皆様には衣装やおうちでの練習等にもご協力いただき、ありがとうございました。また、ご観覧いただいた皆様には、子どもたちへのたくさんの拍手やおほめの言葉をいただき、誠にありがとうございました。



【全校合唱より】

学習発表会～たくさんの方にご観覧いただきありがとうございました



1年「どうぶつたちのおんがくパーティー」より



2年「スイミー」より



5年「風になりたい」より



4年「続・どろぼうがっこう」より



3年「ワールドミュージックツアー」より



6年「エルコス祈り」より

コンセプト「自分のため 人のため 清水のため」

これまで3年生は総合的な学習の時間のコンセプト「自分のため 人のため 清水のため」のもと、「人権・福祉」をテーマに学習を進めてきました。その中で認知症など高齢者の生活、保育や虐待などの子どものこと、障がい者や一人世帯の問題、介護の問題についてなど多岐に渡り、グループ



での協働による調査探究学習を行いました。学習をする中で取り組んできたこと、そこから見えてきた課題などを発表ボードにまとめ、その発表の場として、「清水ミライ若者会議」が過日行われました。現状を踏まえ、今後の清水の未来を良くするためにどんなことができるかを考えました。その後、代表生徒たちが教育の四季「子どもフォーラム」において、清水の現状や課題を踏まえて、生徒たちの視点で未来のまちづくりへの提案を発表し協議を行いました。多くの大人がいる中、緊張もしましたが、これまでの学びを整理し、真剣

に清水の未来を考え、発表・協議することができました。後日、町役場を訪問し、阿部町長様に直接、提言書を手渡しました。将来の清水町の更なる発展や改善に向けて生徒たちの意見が活かされるとともに、中高生が我が町、清水町の未来の担い手としてなお一層活躍することを願っています。

に清水の未来を考え、発表・協議することができました。

後日、町役場を訪問し、阿部町長様に直接、提言書を手渡しました。将来の清水町の更なる発展や改善に向けて生徒たちの意見が活かされるとともに、中高生が我が町、清水町の未来の担い手としてなお一層活躍することを願っています。



清水ミライ若者会議 ～知恵とあるもの探して 町づくり～

11月15日（金）に3年生のクラスで、「清水ミライ若者会議」が開催されました。はじめに、清水町教育委員会の吉田寛臣学校教育課長補佐より、「子どもにやさしいまち 清水町」と題して講話がありました。18歳までの医療費の無料化、給食や修学旅行で補助があること、出産祝金が子どもの人数によってもらえること、オムツは無料で回収してもらえることなど、生徒達は時折驚きの声を上げながら町の子育て支援の状況に耳をかたむけていました。また、吉田さんが清水町を元気にしたいという思いから、ご当地グルメ「十勝清水牛玉ステーキ丼」の開発に携わり、試行



錯誤を繰り返しながら完成させ、清水町を全国にPRした話は、1つのアイデアで町づくりが実現できることを身近に感じることができました。

後半は、教育委員会の福原教育指導幹の司会で進められました。「あなたが思うまちや地域の好きなところ、大切にしたいところは何ですか。」の問いかけに、一人一人がじっくりと考えました。生徒達からは、好きなところは「やさしい」、「挨拶」、「笑顔」、「セーコマ」、「自然」、大切にしたいものは「つながり」、「祭」、「牛玉丼」、「セーコマ」、「自然」が発表され、同じような発表をした者同士で4つの班を作りました。各班では課題「まちの未来を考え、提案しよう」について話し合わせ、「こんな町・地域にしたい」(コンセプト)を頭に描き、「何を中心に取り組もうかな」「こんなことができるといいな」などを色のついた付箋紙に、各自アイデアを書き出し、それらをもとに話し合いが進められました。各班からは「自然を生かしたまちとして、SNSやポスターで公開する」「食のまちとして、牛玉ステーキパンを新ご当地グルメで提案する」「自然豊かなまちとして、フラワーロードなど花や木を植える」「笑顔のある町としてお祭りなどで、地元の農産物をたくさん利用する」という内容が発表されました。自分たちのまちについて、見つめ直し、じっくりと考えることのできた有意義な時間でした。

これらのアイデアは11月26日に行われた『子どもフォーラム』で提案し、どのように取り組むと実現可能になるかを、大人と子どもで一緒に話し合い、町へ提案しました。



(教頭 田代 佳子)

清水高等学校

校長 平野 道雄

高校生東南アジア小論文コンテスト 最優秀賞を受賞！

神田外語大学が主催する「第3回 高校生東南アジア小論文コンテスト」において、全国から応募のあった2,024作品の中から、本校3年次の渡久山勝炉希さんの作品が最優秀賞を受賞しました。このコンテストは、課題となる写真記事の一つを選び、1,000~1,200字の小論文にまとめるもので、インドネシア、ベトナム、タイの三つの部門からなります。

渡久山さんは、お盆の風習や死生観について、出身地である沖縄と、他地域やベトナムとを比較しながら論述してベトナム部門に応募、他の部門の優秀作品をおさえ、最高位の賞に輝きました。表彰式では自ら朗読し、会場全体から大きな拍手が送られたそうです。コン



【神田外語大学 HP より】

テストの概要などについては <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/53938/> に詳しく掲載されています。

渡久山さんの感想

評論研究の授業内という限られた時間で、文章の構成を考えながら 1,200 字書くというのはかなり大変だった。最優秀賞の連絡をいただいたときは、全く実感が湧かなかった。表彰式に出席したことで「最優秀受賞者」という実感が湧いた。とてもいい経験をさせてもらったので、この経験を大学でも活かしたい。

同窓生の協力を得て「清水高校の総合学科を語る集い」開催！

11月2日(土)、今年も清水高校振興会と清水高校の主催で開催されました。昨年までは12月でしたが、今年は根雪になる前に、また、中学生の進路選択の参考になるよう、約一ヶ月早めでの開催となりました。5名の卒業生にパネラーとして協力いただくことから、今年度は同窓会にも共催していただき、前日の打合せの後、清水町役場や清水町教委などに勤務する本校卒業生や、本校の教員なども交えた懇親会に、約30名が参加しました。若い世代の同窓生が顔を合わせ、それぞれの時代の思い出話に花が咲き、和やかで楽しい会となりました。また、随所に清水高校への変わらぬ愛が垣間見え、地域で活躍する本校の卒業生に頼もしさを感じました。

当日の「集い」では、他市町の福祉や教育の関係者等の参加もあり、清水高校による地域活性化への期待の高まりを実感しました。会の終わりには、生徒が前日から仕込んで準備した、ベーコンエピなど10種類の焼きたてパンの中から、お土産として数種類を選んでお持ち帰りいただきました。

同窓生などの若い世代、町の枠を超えた広い地域に、清水高校支援の輪が築かれていっていることに、深く感謝いたします。

一日カフェ「ポルタ フォルトゥーナ」開店！

11月29日(金)、昨年度に引き続き、ハーモニープラザをお借りして開店しました。店の名前の「ポルタ フォルトゥーナ」はイタリア語で、「幸運をもたらすもの」の意味です。本校の生産技術系列食品分野に設けられた科目を学び、今年も様々なコンテスト等で活躍した生徒たちが、日頃からお世話になっている町民の方々に感謝の気持ちを込めて、学校生活で身に付けた調理技術やおもてなしの心で企画・運営を行いました。

メニューには、枝豆や小豆などの地元の食材をふんだんに使ったパンやスイーツのほか、ナポリタンやカツメシなどが並び、開店前からお待ちいただいていたお客様もいらっしやるなど、大盛況でした。

本校生徒の学習の仕上げでもあり、社会に出たときに生きるこうした経験ができることに、



【同窓生大内田さん作成の力強い題字】



【同窓生によるパネルディスカッション】



【参加者へのお土産パン】



【看板と開店直後の様子】

本校の魅力化推進にご支援いただいている清水高校振興会はもちろん、ご協力・ご来店いただいた関係の皆さまにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

清水幼稚園

園長 帰山 孝美

第42回発表会で大きく成長



11月10(日)の発表会には、多くの保護者の皆様やおじいちゃん、おばあちゃん、そして地域の方々に会場一杯になるほどたくさん来ていただいて、子どもたちの発表を真剣なまなざしで観ていただきました。ありがとうございました。遊戯・楽器遊び・運動遊び・劇遊びなど、子どもたちのもつ様々な力の発揮に向け、少し高い目標を設定し無理のない頑張りを目指し

ました。毎日成長している子どもの発表会当日までの姿を見ていただきました。できなかったこともその後の努力でクリアしたことがたくさんあります。来賓の方々は、できばえの素晴らしさとともに“衣装の素敵さ”にも触れて感動されていました。



子どもたちは、どの子も笑顔で達成感と満足感が満ちあふれる表情でした。運動会のことと比べると家族の皆様の声援が何よりの称賛さんとなり、また一つ成長したように思います。子どもたちに感想を聞くと、やはり「上手だったよ」「頑張ったね」「楽しかったよ」などの家族の言葉が一番うれしかったようです。



こぐまクラブ集合訓練～冬道の安全を学ぶ

11月15日(金)に第3回こぐまクラブ集合訓練を行いました。前日に役員さんが打ち合わせと練習を行って、当日を迎えました。今回は冬道の正しい歩き方の指導を中心に行われました。11日(月)から20日(水)まではちょうど冬の全国交通安全運動期間ということもあって、体験するにはタイミングがばっちり合っていました。冬道は車も歩行者も急には止まれません。特に道路への飛び出しは、絶対にやめてください。気持ちや時間の余裕と十分な車間距離をとって過ごして欲しいと思います。



気持ちや時間の余裕と十分な車間距離をとって過ごして欲しいと思います。

しみず「教育の四季」第13回 子どもフォーラム
～ 清水ミライ若者会議 ～
「知恵とあるもの探して まちづくり」

11月26日（火）、清水町文化センターで第13回“しみず「教育の四季」子どもフォーラム”を開催しました。

町内の小・中・高5校の児童会・生徒会役員、CS役員、行政、教職員、町民など約80名が参加しました。

各学校の児童会・生徒会が、しみず「教育の四季」の取組を発表し、その後、「十勝清水学」として授業で取り組んでいる中で実施した「清水ミライ若者会議」からの提案。清水高校3年生は、国語「評論研究」で取り組んだ『私たちの町づくり新提案』の発表を

行いました。発表後、参加者が9つのグループに分かれ、生徒の提案について実現に向けた話し合いを行いました。

最後にそれぞれのグループでの話し合いの様子や課題になることなどを発表し閉会しました。12月2日（月）には、生徒の代表8名で町役場を訪問し、自分たちのアイデアを阿部町長に直接お渡ししました。



清水高校生の提案とグループワーク

<生徒の提案>

- | | |
|---|----------------|
| ○認知症の方への理解と活躍できる場所づくり | ○自然を大切にしたまちづくり |
| ○高齢者と家族の負担の少ないよりよい生活 | ○自然を生かしたまちづくり |
| ○介護施設での生活を充実させるために | ○食のまちづくり |
| ○障がい者が今よりもっと自立しやすい社会 | ○笑顔あふれるまちづくり |
| ○家庭での虐待を減らして、こどもたちの住みやすいまちづくり | |
| ○清水町の知名度UP、足を運んでもらう。大自然を生かすジップライン、ジェットボート | |

（教育指導幹 福原 幸江）



家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで

「12の窓」から感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる 人の中で 共に磨く

<家庭・学校・地域今月の取組>

家庭は、TV消し、夕べの読書

学校は、静寂の

朝の読書で一日をスタート

地域は、図書館で

心ときめく本との出会い